

地域とともに，自助・共助の力を育む防災・減災教育

仙台市立桂小学校研究同人

I はじめに

本校は、平成24年度より3年間新たな学校防災教育推進モデル校の指定を受け、実践を積み重ねてきた。今年度は、重点目標として目指すべき児童の姿を次のような姿として捉え、取組を継続してきた。

- 1 日常的に身の回りの安全について考え、行動できる児童。
- 2 災害発生時に的確な判断をし、自らの安全を確保するために行動できる児童。
- 3 発達段階に応じて、進んで他の人々や集団と関わり、地域の安全に役立つことができる児童。

全校児童が年間を通して継続して防災学習に取り組んだり、自ら進んで学ぶ活動を行ったりすることにより、災害時に自助・共助それぞれの行動を取ることができるようになってほしいと考えた。

II 実践の実際

1 年間指導計画の作成

目標を達成するために、年間を通して継続した取組ができるように、学年ごとに年間指導計画を作成した。作成に当たっては、行事や教科・領域の学習内容に合わせて活用できる副読本の学習項目を、各学年の系統性を考えながら位置付けた。また、異学年交流の場であるたてわり活動を通して行われる防災学習を計画するなどの工夫を行った。

2 年度初めの取組

緊急時に集団下校する際のグループになる、地区ごとに編成されるたてわり活動班の名簿の作成を行った。それから、職員間で年間指導計画の確認を行い、防災教育に対する共通理解を図った。また、保護者に対しては緊急時に連絡するためのメールの登録・配信確認を行い、さらに非常時の下校体制についてまとめたリーフレットを各家庭に配布した。

3 集団下校訓練

(1) 1回目（5月実施）

年間指導計画の早い時期に計画されている集団下校訓練をたてわり班で実施した。この訓練では、安全に気を付けながら下校することはもちろんのこと、通学路の安全や危険箇所の確認を6年生のリーダーが中心となって行った。必要なところは写真で記録し、通学路の安全マップ作成にも活用した。

(2) 2回目（10月実施）

1回目に作成した安全マップを基にしながら、下校途中でその都度止まりながら、危険箇所や災害時の行動のしかたについて確認した。



4 たてわり活動での振り返り

集団下校訓練の中の活動で作成された安全マップは、その後のたてわり活動で地域の防災について話し合う場面で活用した。災害時にどのような行動をすることが必要なのか、日頃から注意すべきことはどんなことなのかについて、リーダーの6年生を中心にみんな考えて深めた。



5 将監中学校区4校合同引渡し訓練

災害時に想定されることを家庭と学校で共有するための訓練の一つとして実施している。親子で災害時に考えられることを体験してもらうことはもちろんのこと、安全マップを見ながら通学路の安全や災害時の行動についての確認をもらった。また、家庭でも災害時の行動の仕方についての話し合いを持ってもらった。このときに活用したのが、災害時確認シートである。

災害時の避難場所はどこであるのか、必要な物はどこにあるのかなどについて話し合ってもらった。この確認シートは改めて学校に提出してもらい、防災に関する授業で活用した。その後、各家庭に返却し、見えるところに貼って緊急時に備えてもらえるよう呼び掛けを行った。

6 学校行事での取組

授業中の災害発生を想定して行われる地震対応避難訓練や休み時間の災害発生を想定して行われる火災対応避難訓練などを実施している。このような訓練を実施する際には、その都度防災副読本を活用しながら、防災・減災について学んできた。

7 授業における防災・減災教育

9月の学校公開日には、保護者の方々に防災に関する授業を公開している。学校で実施されている防災教育がどのようなものであるのかや子供たちがどのような学びを積み重ねているのかを見てもらい、日常的に防災の意識を高めていきたいと考えたからである。

その中でも、年間を通して「防災」を総合的な学習の時間の学習課題として扱っているのは5年生である。第5学年での学びを生かして第6学年時には学校の防災リーダーとして活躍してほしいと考えているからである。

1 第5学年 総合的な学習の時間における取組

(1) 単元名 「つくろう！もっと安心な町 桂」

(2) 単元目標

「もっと安心な町 桂」をつくるために、地域との関わりを深め、地域の防災における現状を理解して、現在の課題を見出すことにより、自分たちができる活動を考え、地域の一人として実践しようとする。

(3) 指導計画

第1次 「もっと安心な町 桂」をつくるために、地域の現状を知ろう。

第2次 「もっと安心な町 桂」をつくるために、防災訓練の参加者を増やす取組を考えよう。

第3次 「もっと安心な町 桂」をつくるために、これから自分たちができることを考えよう。

学習の中で、安心な街の一つの姿として、防災訓練への参加者を増やそうという課題を設定した。地域で様々な方法で呼び掛けを行ったり、地域行事で自分たちの活動を報告したりするなどの実践活動を行い、その都度振り返りを行ってきた。防災訓練では、地域の方々との関わり

を持ちながら自分たちができる活動を積極的にを行い、自分たちの思いを地域の方々に伝えた。



8 その他の活動

(1) 将監地区地域ぐるみ連絡協議会への参加

地域の方々や将監中学校区の4校が集まり、日頃の防災に対する取組の様子についての報告やこれからの地域防災についての意見交換を行っている。

(2) 中学校区防災主任者会

各学校で行われている防災への取組についての意見交換や合同引渡し訓練実施に向けての話し合い、教職員や地域の方々と防災について学ぶ合同研修会などの運営を行っている。

III 終わりに

継続した取組により、学校生活の中ではもちろんのこと、登下校時など地域の中での防災・減災について考えられる児童が増えてきていると感じている。特に、たてわり活動と連携して防災学習に取り組むことで、子供たち自らの学びが次の年にも引き継がれている。それは、5年生で学びを深めた子供たちが、6年生でリーダーとして活躍している様子や、卒業して中学生になってからもボランティア活動の一環として進んで地域の防災訓練に参加している姿からも伺うことができる。

これからも、防災に関する授業を行っていくことはもちろんのこと、たてわり活動と連携しながら防災学習を進め、防災意識の日常化を図っていきたい。

また、防災教育についての理解を深めながら家庭や地域との連携を図り、災害時に自助・共助それぞれの行動を取ることができる児童を育てていきたいと考える。そのためにも、実践を積み重ねながら年間指導計画をその都度見直し、継続した防災・減災教育を展開していきたいと考えている。

